

## 「おきなわ和牛」販売促進会を東京で開催 —アグリフードチェーンを活用した銘柄振興を—

(株)ミートコンパニオンとJAおきなわは、10月23日、共同で「おきなわ和牛」の振興を図る販売促進会を埼玉県和光市の(株)アグリリス・ワンで開催した。アグリリス・ワンはミートコンパニオンの子会社に当たるミートセンター。当日は都内の卸売業者を中心に約40人のバイヤーが来場し、石垣牛6頭を含む、48頭すべてを完売した。最優秀賞の枝肉はJA宜野座肥育センター生産の去勢で、格付けはA-5、枝肉単価は2900円だった。

「おきなわ和牛」は、JAおきなわの肥育センターなどで生産された和牛を指し、年間出荷頭数は約2000頭となっている。また、そのうち八重山郡内で育てられた地域認証牛を「石垣牛」と呼ぶ。出品された牛は、10月16日に沖縄本島を出発し、19日にアグリリス・ワンに到着。20日にと畜され22日に格付けが行われていた。

開会に先立ち、JAおきなわの長濱哲夫常務理事が「豊かな土壌で育ったおきなわ和牛の味を、大勢の人に味わってもらえるように今日はやってきた。バイヤーの人たちの期待にそえるような枝肉がそろっていると自負している」と、おきなわ和牛の魅力をPR。また、ミートコンパニオンの阿部昌史社長は「第1回目の販売促進会が開催されたのが、ちょう

どこのアグリリス・ワンがオープンした年で、それから今年で4回目を数える。出荷牛も年々増えてきておりうれしく思っている。全国にはさまざまな産地があるが、特定の産地との結び付きを強くする戦略も効果的だと考えており、今後もJAおきなわなどと連携を続けていきたい」と、促進会の意義を強調した。

会場には生産者も姿を見せており、JA石垣牛肥育部会の仲大盛吉幸部会長は「おきなわ和牛にせよ石垣牛にせよ、給与する飼料を統一することで食味をそろえることができたと思っている。将来は種雄牛も沖縄産のものにしていきたい」と今後の展望を語った。また、ミートコンパニオンの植村光一郎常務は「当社では、TOKYO Xで生産者から流通・小売、消費者までを包括したアグリフードチェーン体制での販売を促進させてきた。このアグリフードチェーンの牛版をおきなわ和牛で達成していきたい。そのためには、今後、消費者との交流などにも広げていきたい」と、同社の持つビジョンを語っていた。

5回目となる来年は、関係者を沖縄に招いて現地での開催を予定しており、実際に生産現場を確認して購買に臨んでもらうような体制も計画されているという。



真剣なまなざしで枝肉をチェックする購買者



販促会後の懇親会では、おきなわ和牛のしゃぶしゃぶが提供された